

令和7年度学校給食用牛乳供給円滑化推進事業のうち
学校給食用牛乳供給推進会議の実施結果
(関東農政局)

都道府県名 項目	茨城県		栃木県	群馬県	
(1)会議等の名称	学校給食用牛乳供給推進会議	低温細菌に関する衛生研修会	栃木県学校給食用牛乳供給推進協議会	学校給食用牛乳供給事業実施計画策定会議	学校給食用牛乳供給推進会議
(2)日時	令和8年3月4日 10:00～	令和8年3月4日 11:00～	①令和7年11月5日13:30～ ②令和8年3月3日13:30～	令和7年5月8日15:20～16:30	令和7年6月10日10:00～12:45
(3)場所	茨城県畜産会館	茨城県畜産会館	栃木県畜産会館	群馬県勤労福祉センター	群馬明治株式会社
(4)参加機関と人数	県畜産課、県保健体育課 県学校給食会 県学校栄養士協議会 県酪農業協同組合連合会 県PTA連絡協議会 県乳業協会 県牛乳協同組合 計9名	県畜産課、県保健体育課 県学校給食会 県学校栄養士協議会 県酪農業協同組合連合会 県乳業協会、県牛乳協同組合 牛乳供給事業者 計11名	県畜産振興課 県教育委員会 県学校給食会 牛乳供給事業者 県牛乳普及協会 ①計14名、②計16名	県米麦畜産課 県牛乳協会 県牛乳事業協同組合 牛乳供給事業者 県学校牛乳協会 計8名	県米麦畜産課、県教育委員会、県PTA連合会、県学校栄養士会、県学校給食会、県牛乳販売農業協同組合連合会、県牛乳協会、県牛乳事業協同組合、牛乳供給事業者、県学校牛乳協会 計24名
(5)議題	・令和7年度事業内容 ・令和8年度事業内容	・低温細菌について	・令和7年度事業報告 ・令和8年度事業	・令和6年度学校給食用牛乳供給事業の実績概要 ・令和7年度学校給食用牛乳供給事業実施計画及び安定需要確保対策事業等の補助金の取り扱い	・学校給食用牛乳供給事業の概要 ・令和6年度学校給食用牛乳供給事業実施状況 ・令和7年度学校給食用牛乳供給事業実施計画 ・牛乳工場の視察
(6)概要	・配送の効率化について、運送会社と学校の配送条件や問題点について、今後に向けた協議を進めることとなった。 ・一部の供給事業者は、ほぼ全部の市町村、学校から受発注システムを活用している。FAXでは数字が見えにくいことや入力ミスなど人がかかわることで間違いが発生する。 ・毎年6月に、児童に対し牛乳の風味について指導している。	・低温細菌について ・低温細菌による品質劣化が起きた場合の工程点検及び検査方法	1 牛乳発注数量間違い等の問題 2 隔日配送に向けた説明 3 給食費の無償化	・県内すべての市町村が給食費の一部公費負担も含めて無償化を実施しているが、一部の市から2者随意契約による学校給食用牛乳の調達希望が出ており、学乳供給事業への理解が必要。 ・給食費を完全無償化している学校では保護者から給食費を一部負担してでも、充実した給食を提供してほしいとの意見も出ている。 ・一昨年には給食予算が足りず、年明けの2か月間の牛乳の供給停止の要請があり、供給を停止した学校があった。来年4月に学乳向け乳価の値上げが予定され、予算状況などから牛乳の提供を一時休止するなどのケースも多くなるのではと懸念している。 ・配送業者の手配が年々困難となっている。諸物価の高騰が続く中、実情に即した入札制度が求められる。	・配送に関して、夏季休暇などの長期連続休止期間があり、年間185日程度の稼働で、早朝から午前中の配送となるなど変則的な配送実態であることから、配送業者の請負を敬遠したい傾向が顕著。 ・各メーカーは、今後、配送業者の選定がますます困難となると考えており、早急に解決すべき問題のひとつである。 ・隔日配送などの効率化に取り組んでいるが、多くの学校等では、衛生管理責任や冷蔵庫での保管管理が困難などの理由から検討が進まない現状。 ・ここ数年、本県では風味案件は発生していないが、事故発生防止のため、学校関係者等への牛乳特性の周知・理解醸成や乳業者の風味・味覚の平準化等、今後も発生の未然防止に努める。
(7)成果	・事業内容について、共通認識が図られた。 ・学乳の維持・拡大について、関係者の理解認識が図られ、協力体制が得られた。	・改めて遵法意識と消費者に対する誠実さを見直すことができた。 ・低温細菌の種類、特性、検査方法等についての知識を学んだ。 ・品質管理における記録の重要性と信頼性について、共通認識が図られた。	1 FAXでの発注をデジタルシステムにできるよう学校給食会と連携できるよう検討していく。 2 県畜産振興課から教育委員会給食担当者を通じて各市町へ説明文書を配布できるよう検討する。 3 詳細について確認依頼。	・令和6年度の事業実績について、児童生徒数の減少により、供給本数は年々減少。 ・この数年、本県では食中毒はもちろん風味異常などの大きな問題は発生していない。今後も更なる衛生管理・事故発生防止に努め、安心安全な牛乳を供給していくとともに、牛乳の特性等についての周知・啓発の重要性について再確認した。	・保護者や学校関係者から、酪農家の窮状や牛乳の配送問題、牛乳の消費拡大への協力などについて理解が得られた。 ・今後も衛生管理の徹底を図り、事故の未然防止に努めることを確認した。 ・牛乳製造工場を視察し、工場の生産能力や製品がどのような状況で製造されて、出荷されるか改めて確認できた。特に、衛生管理の徹底など安心安全を第一としていることを確認できた。

都道府県名 項目	埼玉県		千葉県		東京都
(1)会議等の名称	学校給食用牛乳供給推進会議	学校給食用牛乳の衛生管理基準に関する研修会	学校給食用牛乳供給推進会議	牛乳衛生講習会	①東京都学校給食用牛乳供給推進会議 ②、③東京学乳委員会
(2)日時	令和7年9月2日 14:00～16:00	令和7年8月20日 14:00～	令和8年3月19日14:30～	令和7年11月7日13:15～	①令和7年6月27日14:00～16:15 ②令和7年11月28日14:00～16:20 ③令和8年3月3日14:00～16:20
(3)場所	埼玉県農林会館	さいたま共済会館	千葉市生涯学習センター	オークラ千葉ホテル	乳業会館
(4)参加機関と人数	県畜産安全課、県食品安全課、県教育局 県学校給食会、県生乳生産者団体 乳業者、県PTA連合会 県学校給食牛乳協議会 関東農政局 計23名	県食品安全課(講師) 乳業者 県学校給食牛乳協議会 計17名	県畜産課、県教育庁 県学校給食会、乳業者 県乳業協同組合 県酪農農業協同組合連合会 県学校給食用牛乳供給事業連絡協議会 計20名	県衛生指導課、県畜産課、 県教育庁、県学校給食会、 乳業者、県ミルクプラント協 会、県酪農農業協同組合 連合会、県学校給食用牛 乳供給事業連絡協議会 計29名	都教育庁 都学校給食会 牛乳供給事業者 東京学乳協議会 一般社団法人Jミルク 関東農政局 ①計27名、②計16名、③計15名。
(5)議題	・学校給食用牛乳供給推進事業 ・令和6年度学校給食用牛乳供給状況 ・令和7年度学校給食用牛乳供給及び 事業計画 ・緊急連絡体制	・乳・乳製品製造におけるHACCPに 沿った衛生管理	・令和7年度学校給食用牛乳供 給事業実績見込み ・令和8年度学校給食用牛乳供 給推進事業	・HACCPと衛生管理の基礎 について ・(一社)日本乳業協会から の情報提供について	・令和6年度事業報告及び7年度の事業計画について ・令和7年度実績及び令和8年度計画
(6)概要	・給食費の中で学乳の占める割合は高いと感じ、学乳に対する理解を深めることも大切。 ・250mlの供給は減少傾向で、紙パックが無駄になっていた。今年から区域内で250mlの注文があった場合には、他社に製造委託して対応している。 ・ドライバー不足、人手不足の影響が大きく、学校にも配送側の理解を求めている。 ・給食無償化が進むのかどうか気にかかる。県内では市町村によって給食費の差が千円ぐらいある。	・県食品安全課から講師を招き、乳・乳製品製造におけるHACCPに沿った衛生管理について、牛乳供給事業者で共有。	・資材価格の高騰や配送業者の確保が年々困難となっていることから、コスト削減や配送の効率化に向け、関係各所と配送条件や課題を整理しながら、今後も継続的に協議を続けていく。 ・コスト削減を進めるにあたって、安心・安全な牛乳の安定供給に支障をきたすことのないよう、連携を図りながら、事故の未然防止に努めていく。	・衛生管理に関する事例を交えながら、実際の対応方法や留意点について理解を深めた。 ・牛乳・乳製品の制度改正に係る取り組みについて学び、今後変更される可能性の高い制度等を事前に把握することができた。	・令和7年1月から東京都公立小中学校の学校給食費の無償化が実現した。 ・学校給食用牛乳供給の課題の1つで、コスト削減につながることに受発注業務のオンライン化がある。協議会会員のうち、オンライン化3社、電話FAX対応5社(うち2社は検討中)。 ・効率的な配送として、前日午後の配送があり、実施されている地域もある。 ・前日配送の場合、三連休の際に学校によって牛乳を保管できる日数が異なる。連休明けの午前に当日分を配送、午後に翌日分を配送する場合がある。また、学校によっては、金曜日に配送して火曜日に飲用できる学校もある。学校の給食施設の規模などにより、保管日数が異なるため、調整が必要。
(7)成果	・学校給食用牛乳供給事業の目的、必要性並びに実施体制等の事業の流れを周知することができた。 ・本県における学校給食用牛乳供給に関する事業の実施状況等について理解を深めることができた。 ・令和7年度学乳供給の事業計画について了承された。 ・学校給食用牛乳を安定供給するために抱えている資材高騰等や牛乳供給目標日数と実際の供給日数の差などの現状について関係者と共有できた。	・安全な食品をつくるための3条件(①原材料②施設・整備・器具や従業員等の作業環境の整備③食品中の危害要因を減少、排除)をHACCPを実行することで確実に行うことが重要であることを学ぶことができた。 ・衛生管理に関する相談先についても再確認できた。	・令和7年度の事業実施状況及び令和8年度の事業内容について関係者間での情報の共有が図られ、また現状把握ができた。	・制度から衛生管理にわたって、基礎的な部分からわかりやすい説明があった。 ・学乳の製造に係る衛生管理について学ぶことができた。	・課題について関係者間で情報共有できた。

都道府県名 項目	神奈川県	山梨県	長野県	静岡県		
(1)会議等の名称	①～③一般社団法人神奈川県乳業協会学乳部会 ④神奈川県学校給食用牛乳協議会	山梨県学校給食用牛乳供給推進会議	長野県学校給食用牛乳推進協議会	静岡県学校給食用牛乳協議会	学校給食用牛乳供給工場の実態調査	
(2)日時	①令和7年6月5日 15:00～16:20 ③令和8年3月24日 15:00～16:20 ②令和7年11月10日 15:00～16:20 ④令和8年3月24日 13:30～14:50	令和8年1月26日10:00～	令和7年12月17日11:00～	①令和7年5月21日13:30～14:45 ②令和7年10月10日12:58～14:10 ③令和8年3月18日13:00～13:55	①令和7年11月11日12:25～14:40 ②令和7年11月14日13:30～15:35	
(3)場所	神奈川県畜産センター	山梨県酪農会館	JA 長野県ビル	静岡県男女共同参画センター「あざれあ」	①大木乳業株式会社 ②函南東部農業協同組合	
(4)参加機関と人数	県畜産課、県保健体育課、県学校給食会、牛乳供給事業者、県栄養士会、関東農政局 ①計13名、②計12名、③計13名、④計7名	県畜産課 県教育委員会 牛乳供給事業者 県学校給食会 県牛乳普及協会 計10名	県農産物マーケティング室 牛乳供給事業者 東海酪連 県乳業協会 県牛乳普及協会 計12名	県畜産振興課、県教育委員会 県栄養士会、県学校給食会 県PTA連絡協議会、生産者団体 県牛乳協会 ①計12名、②計10名、③計12名	県畜産振興課 県農林事務所 県市町教育委員会 県PTA連絡協議会 牛乳供給事業者 県牛乳協会 ①計15名、②計22名	
(5)議題	1 令和6年度学校給食用牛乳供給実績 2 令和7年度学校給食用牛乳供給事業の進捗と課題 3 令和8年度学校給食用牛乳の供給推進	・令和7年度事業概要 ・令和8年度牛乳供給(予定) ・諸課題について(クレーム状況の確認等)	・学乳価格の期中改定 ・学乳配送の効率化	・令和6年度事業実績報告 ・令和7年度事業計画、進捗状況、実績 ・令和8年度事業計画 ・学校給食用牛乳に関する課題、ストローレス化、受発注WEBシステム	・学乳供給工場実態調査 ・令和7年度学校給食用牛乳供給事業	
(6)概要	・環境負荷軽減について、令和7年からバイオストローをバイオ原料5%含有のものから10%含有のものに変更した。ストローレスパックを使用しているところもある。市町村によっては生分解性ストローを使用しているところもある。市町村からストローレスパックの要望もあるが、ストローのリサイクルでも環境負荷低減ができると説明していく。 ・令和5年4月からWEBによる学乳受発注システムの稼働が始まり、2年目となる。運用も円滑に行われ、業務の効率化、合理化が図られている。	・令和9年度以降の学乳区域割の見直しに関して、配送ルートなどを調査して今後検討することとなった。 ・中学校給食が開始される地域がある予定。 ・牛乳を凍結保存することで需給調整に利用可能ではないかの意見があったが、冷凍保管庫が別途必要であり、保管も6か月程度しかできず課題は多い。	・ビンについて、洗浄・殺菌すると割れ・ヒビが発生するため、学期で新しいものに入れ替えている。 ・ビンの供給業者は全国で2箇所、紙の蓋の供給業者は全国で1箇所であり、値上がりが顕著であることから、ビンの供給はいずれ廃止予定。	・価格決定時より経費が増嵩しており、期中価格改定については今後の課題とする。 ・配送に関して隔日配送したいが、学校側の対応(特に冷蔵庫状況)が難しい状況であり、各メーカーが苦慮している。	・ストローレスパックへの移行について、各学校の希望に沿って、要望があればストローを供給していく。 ・ストローレスパックについて、今後もより使いやすく改善されたものを提供していきたい。 ・学乳供給学校のうち、ストロー廃止校36%、継続利用校11%、低学年利用校12%、希望者利用校(アレルギーに対応等)41%。 ・学乳供給学校の90%以上が紙パックのリサイクル活動を実施。	・牛乳供給工場の実態調査、意見交換を実施。
(7)成果	・令和7年度取組として、中学校への学乳供給及び各区域の状況を共有できた。 ・供給スケジュール把握、輸送等の問題点、区域設定、供給事業者の課題等を共有できた。 ・学乳区域割について、見直しが必要だとの課題を共有できた。 ・中学校給食が始まる地域があることから、本数は数年横ばいと推測される。物流等課題があるが引き続き検討していく。 ・供給事業者の減による課題が共有できた。	・2学期末でやや昨年を下回る実績だが、11月に学級閉鎖が多かったためと思われる。 ・「いわゆる給食無償化」については、支払い方法は従来通りのため、各事業者には大きな影響はないことが判明。情報共有が図れた。 ・「学乳風味変化事業対応ガイドライン」、「学校給食における適切な牛乳の取り扱い」について周知できた。風味変化の県内事例を紹介し、各学校への周知手法を検討できた。	・関係者間で情報の共有を図ることができた。 ・ビンの供給が、供給業者の減少やコスト増で厳しくなっている状況が明らかになった。	・各メーカーの現状を共有することができた。	・学乳のプラスチックごみ削減への取り組み等について、関係機関に働きかけることにより、学乳及び学乳供給事業に対し理解を深めることができた。 ・受発注WEBシステムについて、令和8年4月稼働に向け準備していることが了承された。	・学乳実施校へ衛生的かつ安定的に牛乳が供給されていることを工場調査参加者が確認し、理解することにより需要確保ができていると判断する。